ミュンヘン市からの贈り物

マイバウム

姉妹都市のミュンヘン市との友好のシンボルで、大通公園西一一丁目広場に立てられた「マイバウム」を紹介します。

国道二三〇号（石山通）と大通公園が交差する場所に、カラフルな飾りが付いてひときわ目立つ「マイバウム」があります。

これは、昭和四十七年にオリンピックを開催した札幌市と西ドイツ（現在のドイツ）のミュンヘン市が同年、姉妹都市の提携を結んだ記念として、ミュンヘン市から贈られたもので、五十一年に設置されました。

マイバウムはドイツ語で「五月の木」を意味し、春を迎える喜びを象徴しています。白と青に塗られた高二十三㍍の支柱には、楽器を演奏する人や絵を描いている人、ビールだる、民俗ダンスなどの飾りつけのほか、ミュンヘン市の旗などが飾られています。

ここで、マイバウム設置のときのエピソードについて紹介しましょう。

マイバウムの飾りについては、ミュンヘン市からのプレゼントですが、支柱は市で用意しなければなりませんでした。本場ミュンヘン市のマイバウムの支柱は、アルプス地方の枝の少ないスラリとした三十㍍を超える木を使っていますが、それに匹敵するような木を札幌近郊で見つけるのが一苦労でした。

そこで、北海道営林局にお願いして支柱になる木を探してもらったところ、支笏湖畔に二十五㍍級のエゾマツの木が二本あるとの連絡を受けたので、そのうちの一本を切って札幌に運び、使うことにしました。

しかし、二十五㍍もある木を市の中心部に運び入れるのは想像以上に大変なことでした。運搬に当たっては道警に協力を依頼しました。エゾマツを積んだトレーラーの前後にパトカーを配置して、交通量の少ない夜中の午前零時に恵庭市内から国道三六号を通り、札幌に向けて出発したのです。そして、最大の難関である国道二三〇号との交差点も無事に通過し、約三時間かけて西一一丁目に到着しました。

苦労して手に入れたこのエゾマツを使って作られたマイバウムは、五十一年に完成しましたが、五十六年八月の台風一五号の強風で、ちょうど真ん中からぽっきり折れてしまいました。

そこで、市では最大瞬間風速六十㍍の風が吹いても倒れない半永久的なものにしたいと考え、支柱を木製から鉄製のものに替えて翌年一月に復元し現在に至っています。

このマイバウム。いつまでもミュンヘン市との友好のシンボルとして大切にしたいですね。

（平成七年五月号・第二十一回）

マイバウム